令和7年

第3回 定例会

9月9日～9月30日	
29案件	
議案	13案件
認定	8案件
報告	4案件
議長発議議案	1案件
意見書案	3案件

●質疑とは……
議会に提出した議案に対してその内容や不明な点を聞くことです。

Pick up 1 常任委員会（付託案件審査）

付託された案件について、各常任委員会を開催し、審査の結果、全員一致で可決すべきものと決定しました。

《総務文教常任委員会》
★令和7年9月18日(木)
◎議案第6号
伊達市及び有珠郡大滝村の廃置分合に伴う地域自治区の設置に関する協議により定められた事項を変更する条例の一部を改正する条例
◎議案第7号
伊達市職員の育児休業等に関する条例等の一部を改正する条例

《産業民生常任委員会》
★令和7年9月22日(月)
◎議案第5号
伊達市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例

予算決算常任委員会（補正予算）

Pick up 2

「空き部屋、もったいない」

入居率が低い大滝区の市営住宅を有効活用するため、一部について、弾力的運用による企業向け住宅としての運用を目指す。段階的に暖房機等をオール電化仕様から灯油仕様に改修する経費約2，100万円。

こんな質疑がありました。

質疑▼大滝区白樺団地の弾力的運用による企業向け住宅の内容について。

答弁▼入居率が低い市営住宅に対し、市民の入居を妨げない状況であれば、企業向けに貸し出せる。これは国で示された市営住宅の取り扱いの一つである。

質疑▼優徳町にも、オール電化仕様の市営住宅があるが、故障等が増えてきている。例えば、灯油仕様に改修された白樺団地に移れるのか。

答弁▼できれば市外からの入居者などを考えているので、現時点では考えていない。

質疑▼弾力的運用を考えるのであれば、市民ニーズも調査すべきと考えるが。

答弁▼行う方向で進めていく。

大滝区・白樺団地

予算決算常任委員会（補正予算）

Pick up 3

津波避難は線路を渡ろう

津波の第一波到達（約61分を想定）までに、館山下及び西浜地区の住民が浸水想定区外へ円滑かつ迅速に避難できるよう、線路横断を可能とする避難経路を整備するための経費約178万円。

こんな質疑がありました。

質疑▼運用開始のスケジュールについて。

答弁▼令和7年中に工事を行い、令和8年度早々に使えるように計画をしている。

質疑▼今後、線路横断を想定した避難訓練などを行う考えはあるか。

答弁▼実際に線路横断を行う避難訓練は必要と考える。JR北海道と協議を進め、働きかけていく。

質疑▼住民の周知として、標識や誘導看板などが重要であるが、設置についての考えは。

答弁▼線路横断の設置目的などを周知する看板設置は考えている。しかし、住民を誘導する看板については、令和7年度中に予算を計上し、令和8年度に設置を考えている。

津波災害対策の踏切横断用トビラ設置場所

予算決算常任委員会（決算）

Pick up 4

奨学金の返済補助 まずは7名に支援

令和6年度に新規事業としてスタートした、医療や福祉分野の資格を取得し、就業する方への奨学金返還支援。

事業初年度の実績として、7名に対し総額約70万円の支援を行った。

こんな質疑がありました。

質疑▼本事業の総括は。

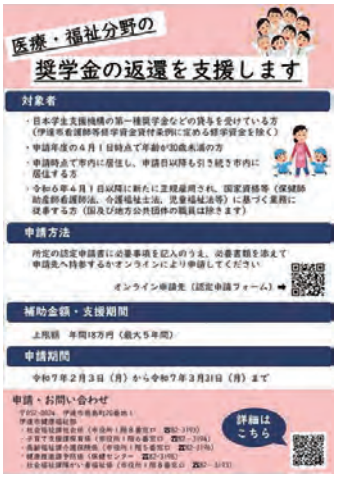
答弁▼対象者を10名と想定していたが、結果として、支援したのは7名だった。ただし、事業としては好評であった。

質疑▼今後の事業の継続は。

答弁▼令和7年度は、予算を倍増させている。

質疑▼令和6年度は、看護師、保育士等、医療・福祉資格取得者への補助であった。今後、対象資格を増やす予定は。

答弁▼当面は、医療・福祉に関わる方々に対する支援を強化する。それが充実した後に、対象資格を拡大することを検討する。



奨学金返還支援事業の周知ポスター

予算決算常任委員会（決算）

Pick up 5

伊達市を盛り上げる 地域おこし協力隊

観光情報発信や誘客活動を担う地域おこし協力隊として、商工観光課に配属の鳥口（とりぐち）能誠（よしまさ）隊員（42歳）が活躍している。

令和6年度の事業決算額は約370万円。

こんな質疑がありました。

質疑▼過去の反省を踏まえ、インターン制度を導入したが。

答弁▼ミスマッチ防止のため、約3週間のインターンを行い、1名を採用した。

質疑▼隊員の活動実績は。

答弁▼毎週、インスタをアップし、情報発信を行っている。また、道の駅に観光情報コーナーや飲食店ボードを設置し、好評を得ている。また、趣味を活かしてランニングイベントを開催するなど、積極的な活動を展開している。

質疑▼事業成功の要因は。

答弁▼本人の人柄が一番だが、担当職員との連携もしっかりと取れている。

積極的な活動で大活躍の鳥口隊員

予算決算常任委員会（決算）

Pick up 6

北海道新幹線nittann 戦略会議廃止か

新幹線ルートが後志側に決定し工事も進んでいることから令和7年度にも、戦略会議を廃止することが検討されている。令和6年度決算額約11万円。

こんな質疑がありました。

質疑▼令和7年度にも戦略会議の廃止との説明があった。廃止に至った経過は。

答弁▼後志ルート決定により、活動も停滞し、今後は苫小牧、室蘭各期成会で国・道への要請していくことで考えざるを得ないとの方向である。

質疑▼ルートが決まったことで、やむを得ない面もあるが、ダイヤ改正でJRを利用しにくくなった。ただ廃止ではなく、日胆全体で地域の観光資源（空港、温泉、アイヌ象徴空間、縄文遺跡群など）どう活用するか、検討するべきだ。

答弁▼現在、新たな枠組みでの取組をどうするかは検討されていない。

戦略会議とは？

北海道新幹線のルート決定を受け、胆振・日高地域では地域経済の活性化を目的に平成25年に「地域戦略会議」を設立しました。4市14町の商工会や観光協会が加盟し、地域の魅力を発信・再発見する活動を行っています。

予算決算常任委員会（決算）

Pick up 7

災害の時こそ、ワイラジオ

災害時に住民に経過、避難呼びかけなどに、もっと活用を図るべきとの指摘があった。事業主体との協議の場などについて質疑があった。決算額事業費約1，498万円、推進経費約178万円。

こんな質疑がありました。

質疑▼災害時に緊急割り込み放送など取り決め、災害時にワイラジオ活用をうたっているが、先日の津波時にはうまく活用を図れたのか。

答弁▼令和3年にガイドラインを作成、令和6年に緊急割り込みについて活用を始めた。

質疑▼「災害の時こそワイラジオをつけよう」などの宣伝をすることで、ライフラインであることを周知することが大事ではないか。

答弁▼災害時に必要な情報の協議を行い運用方針の連携を強めたい。

wi-radio 77.6MHz

予算決算常任委員会（決算）

Pick up 8

地域畜産の安心を支える

市内東関内町でＪＡに管理委託している公共牧野（ぼくや）でマダニ発生の要因と対策、作業に当たっている牧夫の健康管理などの質疑があった。令和６年度の決算額約１，２４５万円。

こんな質疑がありました。

質疑▼令和６年度の利用実積はどうなっているのか。マダニが発生したと聞くが、原因及び対策はどのようにしているのか。

答弁▼利用件数７件、牛１３５頭である。マダニ発生の原因は一概には言えないが、気候の温暖化が考えられる。最悪の場合、牛の死亡に至ることもあり、公共牧野（ぼくや）に上げる前に薬剤散布を実施するなどの対応をしている。

質疑▼人員及び休憩などの体制はどのようになっているか。

答弁▼牧夫（ぼくふ）４名、うち女性２名。女性のため洋式簡易トイレを設置。現地に電気が通っていないため、休憩小屋は発電機で対応している。

東関内町にある公共牧野

予算決算常任委員会（決算）

Pick up 9

道立高校と市、どこまで関わる

海外見学旅行・海外留学・予備校との連携講習・模擬試験等の受験・部活動講師招聘への助成事業。決算額は約１，９１５万円。

こんな質疑がありました。

質疑▼「教育委員会点検・評価報告書」に、道立学校の取組に対して市が評価することはそぐわないことから、評価不可とすると書かれている。令和３年度からこれまでに１億円以上の予算が執行されている事業を評価していないことは問題であり、５年間の総括をすべきだ。

答弁▼外部評価からも指摘を受けている。次年度に向けて事業を検証する。

質疑▼地域振興が目的の本事業を、義務教育を所管する教育委員会が所管することに問題があるのではないか。

答弁▼次年度に向けて、内部で適切な所管部署を検討している。

北海道立伊達開来高校

予算決算常任委員会（決算）

Pick up 10

厳しい状況が続く国民健康保険会計

実質収支額は令和2年度の約1億1，000万円から令和6年度は84万円に悪化。

こんな質疑がありました。

質疑▼歳入額と歳出額の差引額である実質収支額が年々減ってきている。近い将来にマイナスになることを危惧する。今後の見通しは。

答弁▼年々繰越額が減り令和6年度は約6，000万円の基金繰り入れをしている。団塊の世代が後期高齢者に移り国保の被保険者数が減少していることも悪化の要因。基金残高は4億3，000万円あるが、令和12年の北海道との税率統一を考慮しながら保険税率の改定を考えていかければならない。

質疑▼厳しい国保運営について国への要望活動は。

答弁▼国の負担割合引き上げを要望している。

実質収支額の推移

（単位　千円）

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1 歳入総額 (A)	4,252,072	4,187,821	4,157,658	3,968,429	3,664,931
2 歳出総額 (B)	4,139,075	4,056,971	4,122,096	3,966,030	3,664,084
3 歳入歳出差引額 (C)＝(A)－(B)	112,997	130,850	35,562	2,399	847
4 翌年度へ繰り越すべき財源 (1) 継続費逓越額					
4 翌年度へ繰り越すべき財源 (2) 繰越明許費繰越額					
4 翌年度へ繰り越すべき財源 (3) 事故繰越し繰越額					
4 翌年度へ繰り越すべき財源 計 (D)					
5 実質収支額 (E)＝(C)－(D)	112,997	130,850	35,562	2,399	847
6 実質収支額のうち地方自治法第233条の2の規定による基金繰入額					

予算決算常任委員会（決算）

Pick up 11

これからの水道料金はどうなる

伊達発電所休止の影響で給水収益が約1億1，000万円減少。純利益は前年比約1，200万円減少に留める。

こんな質疑がありました。

質疑▼令和6年北電伊達発電所休止の影響で収益が1億円程度の減収になると説明を受けていたが、決算全般にどのように現れているのか。

答弁▼損益計算書上では退職手当引当金の計上を取りやめ等で純利益を9，500万円確保した。しかし健全化指標は軒並み悪化している。

質疑▼発電所休止の説明時に2年後を目処に水道料金の改定を検討すると伺ったが変更はないのか。

答弁▼自己資本比率の全国平均が72％、伊達市は90％と健全なこともあり、いずれ料金改定は避けられないが、もう少し慎重に検討をしていく。